

建設マネジメント技術【目次】

- 005 **巻頭発言 インフラ経営とデータが拓く日本の未来**
／一般社団法人建設コンサルタンツ協会 技術部会 マネジメントシステム委員会
アセットマネジメント専門委員会 (前) 委員長
八千代エンジニアリング株式会社 取締役 副社長執行役員 水野 高志

特集 インフラストックマネジメント

- 008 **「地域インフラ群再生戦略マネジメント」の主流化に向けて**
／国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画第一係長 伊藤 瑞基
- 014 **今後の社会資本整備の方向性について**
／国土交通省 総合政策局 社会資本整備政策課 岡田 奈穂美
- 019 **下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた対策の方向性について ～安全性確保を最優先する管路マネジメントの実現に向けて～**
／国土交通省 大臣官房参事官 (上下水道技術) 付 (上下水道審議官グループ)
課長補佐 外園 明成, 研修員 中野 弘基
- 026 **上下水道 DX 技術カタログ**
／国土交通省 大臣官房参事官 (上下水道技術) 付 (上下水道審議官グループ) 山森 隼人
- 028 **静岡県・下田市における包括的な管理業務委託
～県と市が一体となって道路を維持管理～**
／静岡県 交通基盤部 建設政策課 イノベーション推進班
- 033 **上下水道事業の DX : ビッグデータ× AI による管路リスクの予測診断**
／Fracta Japan 株式会社 日本カンントリーマネージャー COO 井原 正晶
- 036 **KOSEN 型産官学プラス地域共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築**
／REIM 産学連携コンソーシアム (構成員: 舞鶴工業高等専門学校, 福島工業高等専門学校,
長岡工業高等専門学校, 福井工業高等専門学校, 香川高等専門学校, 一般社団法人近畿建設協会)
- 042 **能登半島地震を教訓とした緊急時のアセットマネジメントについての考察**
／一般社団法人日本アセットマネジメント協会 業務執行理事 戸谷 有一



品質で選べば
朝日フェンス



WIRE NET & FENCE
朝日スチール工業株式会社
<https://www.asahi-fence.co.jp>

本社 〒760-8529 香川県高松市花園町1丁目2番29号 TEL 087-833-5151
東京 03-3239-4815 大阪 06-6244-1910 九州 092-471-7621
名古屋 052-932-3500 仙台 022-263-1790



表紙写真

「大地をまもる」
 撮影者：村田 利子
 (山口県)
 撮影場所
 山口県下関市滝部

この写真は、一般社団法人建設広報協会主催、国土交通省後援、「豊かで住みよい国づくり」フォトコンテストの特選作品です。

行政情報

- 050 内閣府における「PPP/PFI の優先的検討」及び「PPP/PFI 地域プラットフォーム」に関する取組について
 / (前) 内閣府 民間資金等活用事業推進室 (PPP/PFI 推進室) 企画官
 (現) 国土交通省 総合政策局総務課 (併) 政策統括官付
 (併) 大臣官房交通需要推計室 政策企画官 (総合交通体系担当) 鈴木 祥弘
 内閣府 民間資金等活用事業推進室 (PPP/PFI 推進室) 参事官補佐 一丸 結夢

ティールーム

- 056 新聞記事と私の人生の振り返り
 /一般社団法人四国クリエイト協会 理事長 藤山 究

自治体の取り組み

- 057 埼玉県におけるサイクルツーリズムの取組について
 /埼玉県 県土整備部 県土整備政策課
- 063 神代川かわまちづくり ～歴史、ひと、まちをつなぐ河川再生事業～
 /宮崎県 県土整備部 河川課

技術情報

- 069 人材不足時代における地方建設業の DX 戦略
 ～内製化 ICT・BIM/CIM と建設用 3D プリンタによる業務革新～
 /福留開発株式会社 土木部土木課 兼 ICT 推進室 課長 足達 大輔

インフラテクコンレポート

- 074 埋まっている消火栓が見えるんです
 -上下水道 3D プラットフォームのその先へ- チームぼんぼんぼんきち 最終章
 / (前) 旭川工業高等専門学校 システム制御情報工学科 准教授
 (現) 東京情報デザイン専門職大学 情報デザイン学部 准教授 以後 直樹
- 079 「排水の陣：Aqua-Resilience」の地域賞受賞にあたって
 /福島工業高等専門学校 都市システム工学科 准教授 増戸 洋幸
- 084 対戦型維持管理ゲーム「オペメン リバイバル」の開発
 ～情報系や生物系の学生が他分野における ICT 活用の重要性を学ぶ取り組み～
 /沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科 講師 仲間 祐貴

日建連表彰 2024 第 5 回土木賞

- 088 玉来ダム本体建設工事

トピックス

- 090 「水と共に生きる国」：オランダの治水体制における法制度・空間計画・デルタプログラムの統合的展開
 /公益財団法人リバーフロント研究所 技術審議役 土屋 信行

- 告知 006 [全国高等専門学校] 第 6 回 インフラマネジメントテクノロジーコンテスト 2025
 098 第 16 期 建設技術展示館 第 15 回出展技術発表会 案内
 100 第 28 回 日本水大賞 102 令和 7 年度 インフラ DX 大賞

- 104 身辺帳

「地域インフラ群再生戦略マネジメント」の主流化に向けて

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画第一係長 いとう みずき 伊藤 瑞基

1. はじめに

本稿では、インフラメンテナンスの現況と見通しについて説明するとともに、現在国土交通省が進めている「地域インフラ群再生戦略マネジメント」（以下、「群マネ」という）を紹介する。

2. インフラメンテナンスの現況と見通し

(1) インフラメンテナンス施策の振り返り

我が国における近年のインフラメンテナンス施策について、節目に沿って振り返る。

- ・日本よりも先行してインフラ整備が進められたアメリカでは、1930年代のニューディール政策以降に大規模に整備されたインフラが1980年代に老朽化問題が深刻化し、経済や生活の様々な面に影響を及ぼす事態に至った（『荒廃するアメリカ』*参照）。日本で急速にインフラ整備が進んだのは、高度経済成長期であり、アメリカの「30年後ろ」を歩んでいるとも言えることから、アメリカの教訓を参考にして、「荒廃する日本」としないため、予防保全型インフラメンテナンスへの転換などの検討が進められた。

- ・こうした本格的な検討の場の一つとして、2012年7月には国土交通省の社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会 技術部会の下に「社会資本メンテナンス戦略小委員会」（以下、「メンテ小委」という）が設置され、今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について議論を開始した。そのわずか4カ月後の同年12月2日、中央自動車道の笹子トンネルで天井板落下事故が発生した。事故2日後に開催されたメンテ小委では、「今までインフラメンテナンスは単にお金が足りないという問題だけで取り上げられていた面があるが、命につながり得る問題であるということを経験も目の当たりにした」と委員が発言するなど、インフラメンテナンスに対する危機意識が強く刻まれた。
- ・国土交通省では、翌2013年を「社会資本メンテナンス元年」として位置付け、以降、点検、診断、措置、記録からなるメンテナンスサイクルの確立や地方公共団体に対する補助金、交付金等の財政措置、民間資格制度の創設、新技術・民間活力等の活用によるインフラメンテナンスの効率化・高度化など、さまざまな取組を進めてきた。
- ・笹子トンネルの事故から丸10年を迎えた2022年12月2日、前記の審議会の部会より国土交通大臣に対して、新たな提言「総力戦で取り組むべき次世代の『地域インフラ群再生戦略マネ